

＝人権尊重社会の実現をめざして＝

シリーズ
人権を
考える④

人権の花運動

～思いやりの心・

かけがえのない命を大切に～

「人権の花」運動は、法務省と全国人権擁護委員連合会が共同で取り組んでいる、主に小学生を対象にした人権思想の普及・高揚を図るための啓発活動です。

この運動は、花の種子や苗などを学校ぐるみで育てることを通して、協力することや感謝することの大切さを学び、生命の尊さを実感することを目的としています。また、育てた花を学校関係者や社会福祉施設などに届けたり、写生会や鑑賞会を開いたりすることにより、一層の人権尊重思想の普及高揚を図っています。

安来市では、どの学校にも運動の輪が広まるよう輪番で担当校を決め、2年間活動します。今年度は、昨年度に引き続き、社日小学校・能義小学校・飯梨小学校・比田小学校・赤屋小学校の5校が取り組んでいます。

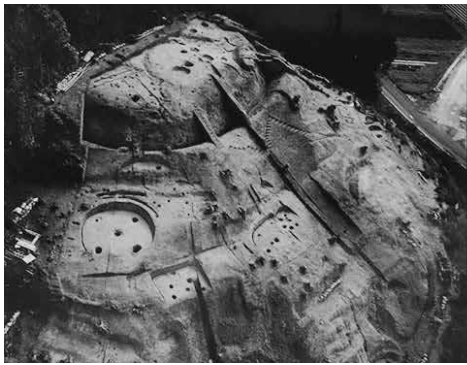


▲令和4年度の活動風景。市から各小学校にブルーサルビアやマリーゴールドの苗などを配布しました。

これから夏に向かい、暑い中での花のお世話は大変ですが、みんなで力を合わせて育てることによって、子どもたちにたくましさや優しさ、そして命をいとおしむ心などが豊かに育っていくことを願っています。

秋には「人権の花」絵画コンテストを実施し、作品は人権フェスティバル「つなげて未来や」の会場や市役所安来庁舎内で展示する予定です。お楽しみに。

問い合わせ 人権施策推進課 ☎23-3095



▲環濠を伴う集落、経塚鼻遺跡（伯太町安田）。※調査時の写真。遺物等資料館で展示しています。

弥生時代には農耕が定着し、これに伴って、各地に有力者を中心とする「クニ」というまとまりができます。また、クニ同士の勢力争いが起こり、『後漢書』（中国の歴史書）によれば「倭国大いに乱れる」と呼ばれる混乱の時期となります。市内でも、生活するには不便な山の上の集落（陽徳遺跡・門生町）や、環濠（堀）を伴う集落（経塚鼻遺跡）が確認されてお

弥生時代の安来

安来市立歴史資料館の展示品を通して安来市の歴史を紹介する、このシリーズ。第3回は弥生時代のお話です。

歴史資料館資料
連載③ 知っておきたい
安来市の歴史

り、クニ同士の緊張関係の影響が考えられます。
この後、皆さんよくご存じの「邪馬台国」の「卑弥呼」の登場で混乱は収まり、全国的に画一的な古墳が造られる古墳時代になります。弥生時代には地域性の強い古墳が作られていました。
特徴的な墓制の一つに四隅突出型墳丘墓があります。これは、中国山地を含む山陰と北陸に分布する、四角形の四隅がヒトデのように飛び出した特異な形の墳丘墓です。市内にある仲仙寺9号墓、宮山4号墓といった大きな四隅突出墓は、この地域に大きな勢力があったことを示しています。この勢力は、後の荒島古墳群を造った勢力に脈々とつながるものと考えられています。

問い合わせ

歴史資料館 ☎32・2767



◀仲仙寺墳墓群（西赤江町）。史跡公園として整備されています。

